

## 虹の架け橋、植樹のつどい

梅雨入り直前の6月3日、雨の予報を吹き飛ばして晴れ間なのぞく中、鏡野町奥津で開催された「森と海をつなぐ植樹のつどい」に参加した。岡山県漁業士会と作州かがみの森林組合の共催で、県下沿岸の漁業関係者や鏡野町林業関係者総勢80名で、ヤマザクラやヤマモミジ等の苗木250本を植樹した。当地での植樹は3回目となり、合計3,500㎡に約1,000本の広葉樹を植え付けたことになる。

特に今回は、地元奥津小学校の5年生7名の参加もあり、瀬戸内海の海の幸に栄養をもたらす原点ともいえる森林を育むことの大切さを再認識してもらった。



小学生と一緒に植樹する参加者達



全員集合

単に植樹をするといっても、簡単なことではない。現場の整地、苗木の準備、鍬やヘルメット等の資材や熱中症対策の飲み物の準備、後片付けなど、関係者の方々の並々ならぬ尽力と、日生から笠岡まで県下沿岸全域から集まった方々の熱意に、頭の下がる思いであった。

今後は、山の方々によるアマモの種蒔きなども検討されているようで、豊かな山と海を育てる取り組みの連携にさらに厚みが増していくものと期待している。

話しは変わるが、5月上旬、海上作業中に珍しい虹を発見して、思わず写真に納めた。こんな珍しいものが見られるのは、ありがたいことだと思っていたが、新聞等で報道されたように、西日本から関東にかけて広く見られたそうで、環水平アークという現象らしい。

苗木の生長を促すために、7月には下草刈りが待っている。この小さな取り組みの上にも、皆の願いを叶える大きな虹の架け橋が架かっていることだろう。(水圏環境室：藤井)



水平に横たわる虹？